Medicine for the last mile

～全てのアフリカの人々に健康と笑顔を～

NPO法人 AfriMedico

年次報告書　2016

2016年4月～2017年3月

AfriMedico

AfriMedicoは医療を通じて、アフリカと日本をつなぎ、健康と笑顔を届けます。

私たちのmission

私たちは**“Medicine for the last mile”**をスローガンに、**「日本発祥"置き薬"の仕組みによってアフリカの住民へ健康と笑顔を届けること」**をミッションとしています。

私たちの活動

私達は置き薬の仕組みの導入により、アフリカの住民に対して以下の項目を実現していきます。

- セルフメディケーションの促進による健康促進・疾病予防
- スタッフの定期訪問による医療知識の啓発

将来はその置き薬セットへ現地ニーズに合った日本の医薬品を導入する事で、

- アフリカ住民のQuality of Lifeの向上
- 日本の製薬（配置薬）業界の発展

に貢献していきたいと考えています。

代表理事挨拶

ご支援頂いている皆様へ

2016年度も多大なご支援を頂き、誠に有難うございました。NPO法人を設立して3年目に入り、いよいよ本格的に現地での置き薬システムが形になりつつあります。それも皆さま一人ひとりのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

この1年は私にとって、組織を強くするという挑戦の1年でした。プライベートの話で恐縮ですが、2016年の年末に第1子を出産しました。しかし、AfriMedicoも立ち上げ期で、まだまだ私が踏ん張らないといけないと感じている中で、どうなるのか不安な面が多かったのです。そんな中、支援して頂いている方からの声やメンバーの支えがあり、出産前後の苦労を乗り越え、組織としてもメンバー一人一人が頑張ってくれました。

「一人で出来ることは限られる。そして、個人よりチーム戦の方がより強固な力となる。」出産して学んだことです。全ての経験は組織運営にも生かされています。これからはさらに個人としても、組織としても成長し、アフリカに貢献していきたいと決意を新たにしました。

今年度は、昨年度の現地視察を踏まえて痛感した現地の啓蒙を目的として、現地での「教育プログラムの強化」に着手します。現地での啓発資材を検討し、現地の方々が自発的にセルフメディケーションを行える環境を創っていきます。

本年度もAfriMedicoと関わる全ての人に健康と笑顔が届けられるよう活動していきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

平成29年6月

町井 恵理

活動総括

2016年
4月　5月　6月　7月　8月　9月

置き薬事業

2016年度第1回

現地訪問

5月「置き薬」事業開始
Bwama村の村長オフィスに置き薬を設置し、村人が余計な交通費をかけずに薬を入手できる環境を実現。しかし、各家への設置には至らず

2016年度第2回

現地訪問

イベント登壇

★第3回チャティーラン in多摩中央公園

★JAMMIN（ジャミン）
チャリティTシャツイベント

★AfriMedico総会

★タンザニア視察報告会

★DODAソーシャルキャリアフォーラム

★第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）出展

★JICA東京主催：TICAD開催記念イベント出展

★横浜青年会議所登壇

★「青年海外協力隊がつくる日本」座談会

★TOKYO Startup gatewayプレイベント

★人間力大賞

★TICAD 公式サイドイベント「GO GO Africa !」

★「AFRICA起業支援イニシアチブ」キックオフセミナー

★Industry Co-Creationカンファレンス(ICC) KYOTO 2016登壇

ベストプレゼンター賞受賞

2017年
10月　11月　12月　1月　2月　3月

置き薬事業

医薬品に対する知識が少ない状況でも、村人が安全に置き薬を使える仕組みを考案。
各家への置き薬設置と**置き薬ステーション**の実現に向けたプランニング開始

2016年度第3回

現地訪問

ステーションの運用開始と同時に、
数軒の家で置き薬の設置開始。
お薬相談窓口が徒歩圏にあることで、不安なく家庭への置き薬設置が実現

イベント登壇

★READYFOR クラウドファンディング Voyageプログラム

★DODAソーシャルキャリアフォーラム

★第4回チャリティーラン ＠お台場～豊洲

★グロービスNPO研究会/二枚目の名刺/NPOパフォーマンスバンクとの共催イベント

★NPO設立２周年記念＋タンザニア報告会

★Forbes Japan
世界で闘う「日本の女性」55人に選出

★第30回人間力大賞、ファイナリスト

★AfricaQuest主催：アフリカビジネスラボに登壇

★Living in Peace マイクロファイナンスフォーラム　2016

★JICA地球ひろば：ポスター出展

★サイエンスアゴラ「青年海外協力隊が貢献する医療分野」

★FEC 民間外交推進協会

★グレイスサロン・チャリティパーティ

★日本配置業協会

★Poverty Ink チャリティ上映会

海外での活動実績：
タンザニア置き薬事業

置き薬事業の開始

2016年は、タンザニアにて置き薬事業を開始した記念すべき年となりました。5月にはBwama(ブワマ)村の村長オフィスをベースに置き薬の運用を開始し、多くの村人に薬剤を届ける一歩を踏み出しました。そして、遂に今年1月、村内に「置き薬ステーション」を設置。少しずつですが、各家庭への置き薬の配置をスタートさせています。

1. Bwama（ブワマ）村

タンザニア中心地Dar Es Salaamから車で2～3時間に位置するブワマ村。4地区からなる広範囲な村で、全地区合わせて1,220世帯、2,500人以上が暮らしています。経済的に裕福な地域とは言えませんが、人々は笑顔が絶えず穏やかな生活をしています。しかし、病院へ行ったり、お薬を入手するためには、乗合バスやバイクタクシーを使うなど、時には薬や診療代よりも高い交通費をかける必要があるのが村の現状なのです。

↑ブワマ村の子供達。滅多に来ない外国人に興味津々？

2. 置き薬ステーション

村人にとって新しい概念である「置き薬」を各家庭にスムーズに配置するためには、置き薬の使用方法を説明したり、服用上で困ったときに相談できるスタッフが常駐する拠点が重要となります。それが置き薬ステーションです。ブワマ村の人たちが病気になった時にどの薬を飲めば良いか、また、症状に関するアドバイスを受けることができる場所でもあります。同時にマラリアなどの感染症にかかっているかどうかの検査を受けることもできます。 時には医療や健康に関するセミナーを開催するなど、置き薬ステーションでは病気にならないための予防方法も提供するため、村人にとっては非常に重要な施設となる可能性を秘めています。

私たちは置き薬を広めるため、そして、安心して薬を服用できる環境を作るため、各村に一つ、この置き薬ステーションを設置することを目指しています。

← 1月、日本人スタッフも内装工事に協力しました！

マラリア検査キットや置き薬のストックの保管棚を設置→

椅子とテーブルを準備し、置き薬ステーションが完成しました！↓

3. 置き薬マネージャー・ムトロ

この置き薬ステーションには、置き薬を管理するマネージャーが常駐します。今回、そのマネージャー候補と面接、置き薬BOXを一般家庭に配置するデモンストレーション等の様々なテストを行った結果、看護師の資格を持つMtro（ムトロ）の採用を決定しました。マラリア検査や村人の健康相談、医療教育に関するセミナーの実施等の役割も担う新たな仲間が加わり、アフリカ版置き薬をスタートさせる目途がついたのです。Bwama村出身ということもあり、ムトロを見かけてわざわざ声をかけにくる村人も多く、初日から村に暖かく迎え入れられていました。彼は地域に根差す置き薬ステーションのマネージャーとして大事な素養を備えています。

海外での活動実績：タンザニア置き薬事業

普段は少しシャイなムトロですが、各戸を訪問して置き薬を説明する段階になると、とたんに自信をもって村人と話します。ある家庭へ置き薬BOXの説明に訪れた際も、子どもが長らく皮膚トラブルで困っているという話を母親から聞くと、その場で子どもの様子を診た彼は、置き薬BOXの中からおもむろに薬を取り出し、「この薬が効くよ。使い方は1日3回患部に塗ること！」と、説明書を見ることなく症状に応じた薬の使用方法まで説明したのです。そして、それを聞いた母親は「じゃあすぐ使うから今この場で買うわ！」という、私たちの想定を上回る展開へ。ブワマ村で置き薬の将来を担う、彼の成長が楽しみです！

↑最初は戸惑いながら話していたムトロですが、薬の話となると自信溢れる口調に。直ぐに信頼関係が生まれました。

ムトロにとっての「置き薬」お客様第一号！彼にとっても、私たちにとっても大きな一歩です↓

4. 各家庭への配置

今年1月のアフリメディコスタッフ訪問時には、ステーションの完成に先立って、ムトロの研修を兼ねて、数軒の家に置き薬配置のお願いをしました。結果、2軒の家庭において置き薬の配置が実現しました！これは彼自らが自分の言葉で説明した「置き薬」の有用性をお客様がしっかりと理解した結果です。たった2軒ですが、非常に大きな2軒です。これをきっかけとしてより多くの家庭に置き薬を届けられるよう、精いっぱいサポートを続けたいと思っています。

↑カレクワ村。コログウェまではそれほど遠くないが、やはり交通費は安くない

5. 新しい村の可能性

ブワマ村でのスタートは、事業の一歩に過ぎません。他の村への展開を見据え、既に私たちは行動を開始しています。1月のタンザニア訪問でも、中心地ダルエスサラームからバスで７時間かけて北部の町、Korogwe（コログウェ）に向かいました。この町の近くでも薬局のない村は多く存在します。その一つ、山の上にあるカレクワ村での聞き取り調査を通じて、置き薬の有用性を確認することができました。すぐに置き薬の配置を、という状況ではありませんが、大きなニーズと可能性を感じることができたので、ブワマ村での成功をこの村でも実現させたいと思っています。

6. タンザニアで日本の薬剤を使ってもらうために

現在、タンザニアでは販売されていない日本の薬剤を現地でも使えるように、現地の規制当局（TFDA）への相談を続けています。置き薬として使用する一般用医薬品とはいえ、販売承認を得るには一年以上の期間を必要とします。

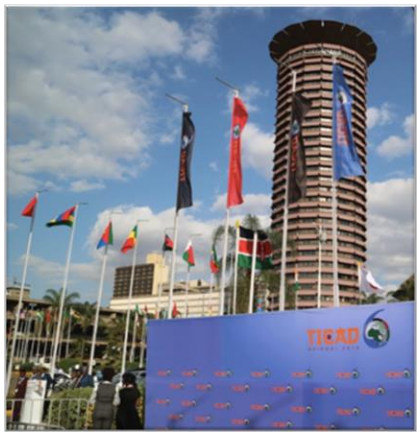
薬の保管環境など、日本と異なる規制も多く、販売承認を得るには様々な課題をクリアする必要がありますが、現地当局とのコミュニケーションを深め、日本とタンザニアの架け橋となれるよう、根気強く活動を続けてまいります。

↑タンザニアにおいて、医薬品を承認する官庁、TFDA。今後も、より緊密なコネクションを築いていきます！

海外での活動実績：TICAD VI でのブース出展

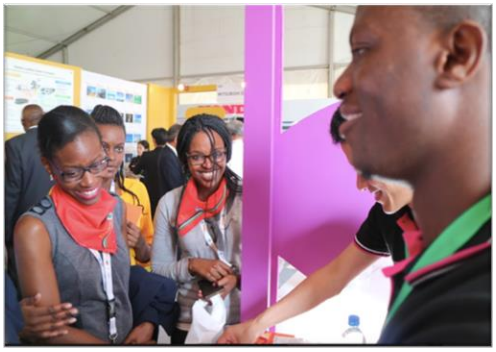
第６回アフリカ開発会議（TICAD VI）ジャパンフェアに参加して

（月間アフリカニュースへの寄稿文より抜粋）



AfriMedicoメンバー３名はTシャツにバックパックという、TICADの舞台には似つかわしくない装いでナイロビに降り立ちました。他の日本人達がジャケットを羽織りスーツケースを持ち、次々と用意された送迎車に乗り込むのを見ていると、さすがに場違いな思いを禁じえません。ただ、日本を代表する大企業に混じって唯一NPO法人として出展する、という大きな誇りを持って、意気揚々と会場に向かったのです。

しかし、待っていたのは、空港から会場に向かうまでの大渋滞。ただでさえ渋滞が多いナイロビ市内が、今回の会議のため多くの道路が封鎖されているためです。次に待っていたのはライフルを肩に下げ、鋭い目付きでIDを確認する兵士達。頼もしいというよりも、恐怖感の方が先立ってしまうのは私たちだけでなかったはずです。



翌日以降も想定外の連続でした。チームカラーのオレンジは目立つものの、決して存在感があるとは言えない小さなAfriMedicoブース。タンザニア人の現地スタッフや現地で合流したAfriMedico協力者も加えた６名体制で挑むものの、捌ききれないほどひっきりなしに人が訪れました。「OKIGUSURI？なんだ？」「いいアイデアじゃないか、ウチにもOKIGUSURIを置いてくれ！！」「何？タンザニアだけ？何故だ？いつ私たちの国におけるようになる？手伝うよ！いくら必要なんだ？」 開催地であるケニアは勿論、モザンビーク、マリ、ナイジェリア、ウガンダ、エチオピア、コンゴなど多くのアフリカ諸国の人々が、次々に訴えかけてきました。「私たちは近い将来、貴方達の国にもOKIGUSURIを持っていく。その時は是非協力してほしい」という答えに終始せざるを得ませんでした。

勿論、私たちが事業を開始したタンザニア以外でも、多くのアフリカの人々にとって薬剤へのアクセスが大きな課題であることは十分に理解していました。しかし、彼らの熱い思いを持った語りと真剣な眼差しに触れると、今まで日本で感じていたものとは別の感覚が、明らかに自分の中で生まれました。アフリカ全体に対する責任感とも言っても良いのかもしれません。

AfriMedicoは今回のTICAD VIで「OKIGUSURI」をアフリカの人々に伝え、そして彼らの要望をしっかりと受け取ったのです。

次にすべきことは、彼らの熱い思いに応えること。それをしっかりと心に刻みこの事業を大きく推進していく決意を新たにしました。

今回のTICAD VI で採択されたナイロビ宣言の中に、以下の文言が述べられています。

「全ての人々が生涯を通じて保健サービスを確実に受けられるよう、（中略）、強靭で包摂的かつ持続可能な保健システムが必要であることを特に強調する。」

まさに、AfriMedicoがやるべきことが明確に述べられているのです。「置き薬」は、日本の医療の一翼を300年間担ってきました。そして「OKIGUSURI」は、これからアフリカの保健システムの一端を担っていく。それは近い未来だと思っています。

国内の活動実績

クラウドファンディングを利用した資金調達

2016年11－12月にかけて実施したクラウドファンディングでは187名の方々から総額252万6千円と当初の目標金額を大きく超える暖かいご支援をいただきました。

このプロジェクトをご支援くださった方、いいね！やシェア、または口コミで私たちの挑戦を周りの方々に広めて下さった方、その他多くの方法で私たちを支えて下さった方々に、本当に感謝しております。ありがとうございました！

支えて下さった企業の皆様

- 株式会社廣貫堂　様
- 中京医薬品株式会社　様
- 布亀株式会社　様
- 株式会社セールスフォース・ドットコム　様
- 日本マイクロソフト株式会社　様
- freee株式会社　様

＊企業名は順不同です。

置き薬システムをアフリカへ導入し、医療環境が整わない場所へ薬を届けるには、AfriMedicoだけの力では足りません。私たちは配置薬事業に賛同してくださる企業からたくさんのサポートをいただいております。改めて御礼申し上げます。

活動報告会の開催、各種セミナーへの登壇

AfriMedicoの活動をより多くの方に知ってもらうため、国内でセミナーやイベントを行っています。また、様々なNGOが参加する交流会や国際協力関連の学会にも参加し、積極的な情報発信を行っています。

2016年7月　タンザニア視察報告会
～日本仕込みのソーシャルビジネス
スタートアップ～

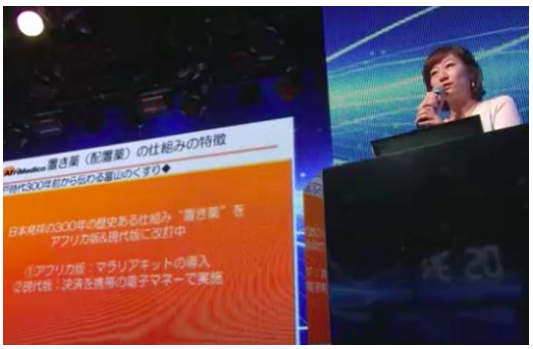
2016年10月　Living in Peace
「マイクロファイナンスセミナー」

2017年3月　NPO設立２周年記念
「タンザニア置き薬進捗報告会」

国内での活動実績：受賞実績

昨年度に引き続きAfriMedicoの活動に対して多方面より評価を頂くことができました。これらを励みに置き薬事業の実現に向けて着実に進んで参ります。

人間力大賞



国内外問わず、科学技術・医療・福祉・文化芸術・国際交流・国際協力・環境・スポーツ・教育・まちづくり・災害復興等の活動を積極果敢に実践している人間力あふれる光り輝く傑出した若者が対象となる、「人間力大賞」を受賞致しました。

また、プレゼンテーション選考会では「東京商工会議所奨励賞」「まちづくり地球市民財団奨励賞」を受賞いたしました。

Forbes JAPAN
世界で活躍する日本人女性55人

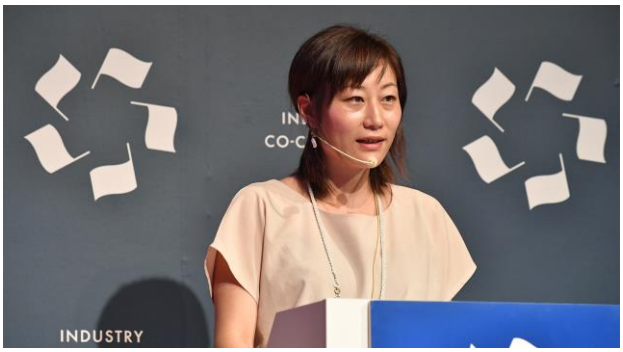
Forbes USが毎年夏に発表する「MOST POWERFUL WOMEN IN THE WORLD」との連動企画として、Forbes Japanが世界で闘う日本人女性55人の一人として、町井が選出されました。

大山激励賞

予防医学的研究及び健康増進に関する調査研究に対する助成事業などを実施する大山財団様から「大山激励賞」受賞致しました。

日本の伝統である置き薬のシステムをアフリカに応用することにより、保健施設へのアクセスが限られる遠隔地や貧困地区などの住民が医療サービスを継続的に享受できる体制を創ることに尽力されたご功績及びその将来性が高いということで評価して頂きました。

ベストプレゼンター
ICCカンファレンスKYOTO2016



日本最大級の招待制イベントである、Industry Co-Creation(ICC)カンファレンスKYOTO 2016 が2016年9月6日・7日に開催され、600名もの新産業のトップリーダーが京都に集まり、町井も招待されました。

その中で実施された「カタパルト」というプログラムにおいて、１０数社がプレゼンを実施する中、町井が「ベストプレゼンターの栄誉をいただきました。

財務報告

Ⅰ 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	380,000		
賛助会員受取会費	240,000	620,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	3,069,324		
受取助成金	500,000	3,569,324	
3. 受取手数料			
受取手数料	317	317	
		経常収益計	4,189,641
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
（1）その他経費			
外注費	203,300		
市場調査費	153,305		
出張旅費	1,215,761		
広告宣伝費	200,086		
支払手数料	306,052		
車両費	16,998		
交際費	11,803		
会議費	126,369		
その他経費計	2,233,674		
		事業費計	2,233,674
2. 管理費			
（1）その他経費			
地代家賃	48,600		
情報通信費	94,022		
印刷費用			
帳簿文具費	136,341		
諸税印紙	1,300		
荷造運賃	25,442		
雑費			
その他経費計	305,705		
		管理費計	305,705
		経常費用計	2,539,379
		当期正味財産増減額	1,650,262
		前期繰越正味財産額	1,136,929
		次期繰越正味財産額	2,787,191

監査報告書

2017年5月31日

NPO法人　AfriMedico
代表理事　町井　恵理　様

監事　蒲地　正英

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人であるAfriMedicoの2016年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

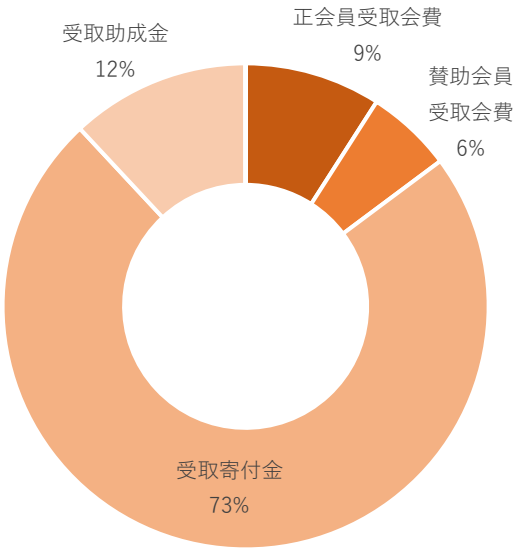
私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、登記予定の定款及び2016年度の活動方針、事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

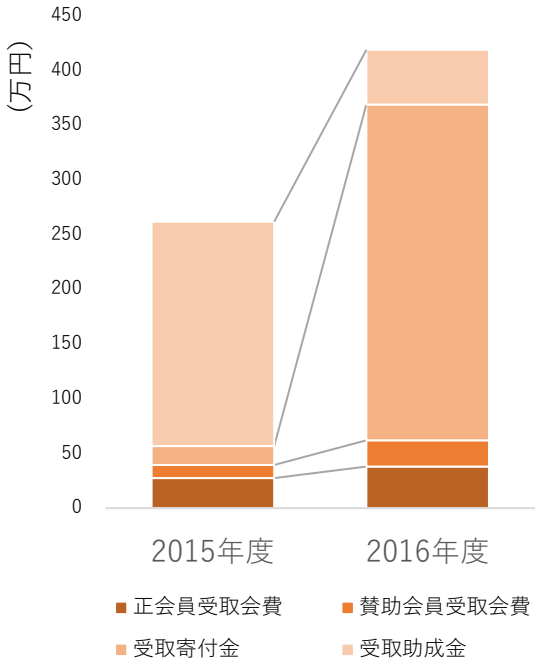
よって、私は、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人であるAfriMedicoの2017年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認める。

以上

2016年度収入の内訳



マンスリーサポーターの着実な増加に加え、クラウドファンディング（Readyfor）を通じたサポーターの皆様からのご支援が、受取寄付金を昨年と比べて大きく増加させた原動力となりました。また、助成金の獲得総額は減額となりましたが、正会員・賛助会員数は大きく増加させることができました。次年度も引き続き、より多くの方々に私たちの活動を伝えていきたいと思います。



お知らせ

AfriMedicoは組織の理念に賛同し、活動を支援してくださる方を随時募集しています。

参加の方法

①寄付をする
AfriMedicoは任意の額のご寄附を随時受け付けています。ご寄付は下記の口座にお振込みいただくか、下記URLよりクレジットカードで決済ください。
銀行名： 楽天銀行　　第一営業支店（251）
口座番号：　7597662　　口座名： アフリメディコ
URL　：http://afrimedico.org/donation/

②会員になる
AfriMedicoは私たちの理念・活動内容にご賛同いただける個人・企業の方々を広く募集しています。定期的な活動状況の報告、シンポジウ ム・講演会・イベントなどの優待、アフリカへのスタディツアーの優待など会員特典が多数あります。
■ 正会員（個人） 入会金5千円 年会費1万円
■ 正会員（団体） 入会金1万円 年会費1口5万円
■ 寄付会員　年会費1口1万円

③ボランティアとして活動する
AfriMedicoの理念に賛同し、ともに活動してくれる方を募集しています。ボランティアとしての活動に興味のある方は、afrimedico@afrimedico.org までご連絡ください。

Voice from Supporter -支援者様の声-

アフリメディコ設立２周年、おめでとうございます。
町井代表のトラウマとも言えるようなアフリカの乳児を抱えた母親との遭遇という経験から至った自らの使命感から、まさに前人未到のチャレンジに突き進み続けていらっしゃる。熱い気持ちは、１年も経てば冷めてしまうものです。設立準備から数えると２年どころではないと思いますが、なおチャレンジを続ける崇高な姿には、尊敬の念を超え、僕には表現する言葉が見つかりません。
一人でも多くの命を救えるよう、代表並びにスタッフ一同には健康に留意され、頑張ってください。僕も微力ながら寄付を通じて継続的に支援をさせていただきます。

アンビシャスワークス合同会社　代表　新免泰幸

Voice from Pro bono -プロボノの声-

置き薬といえば「富山の置き薬」。福井出身の私にとっては幼い頃からとても馴染みのあるものであり、今は亡き祖母との思い出とともに蘇ってきて温かい気持ちになります。そう、置き薬は信頼とコミュニケーションのツールでもあるんです。その置き薬をアフリカに導入する、ある日のセミナーでの町井さんの話にとても興味が惹かれました。
今国際協力の世界では、日本では古いと思われていたモノ・コトが他の国では新しく大変高い価値を持つものとして見直されています。国際協力に身を置くものとして、祖母との思い出を胸にAfriMedicoの活動に、これからも積極的に貢献したいと考えております。

プロボノ　　大杉　健一

E-mail : afrimedico@afrimedico.org

Web site : http://afrimedico.org

Facebook:www.facebook.com/afrimedico

発行：2017年6月

NPO法人 AfriMedico